

エコアクション21環境活動レポート

(2018年4月～2019年3月活動実績書)



- 1 組織の概要
- 2 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日
- 3 環境方針
- 4 環境目標
- 5 環境活動計画
- 6 環境目標の実績
- 7 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容
- 8 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無
- 9 代表者による全体評価と見直しの結果

作成:2019年5月17日

トヨシマ電機株式会社

<1>組織の概要

(1) 名称及び代表者名

トヨシマ電機株式会社

代表取締役社長 坂本喜則

(2) 所在地

本社 愛知県小牧市若草町86番地

ホームページアドレス <https://www.toyoshimadenki.co.jp/>

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役企画室室長 国定明彦

TEL:0568-75-2246

担当者 取締役総務部部長 山田修一

TEL:0568-75-2165

(4) 事業内容

電子部品の実装設計

クリーンブース・クリーンルームの設計・施工

各種ガス発生装置の製造・販売

建設業(大工、電気工事、管工事、内装仕上)

(5) 事業の規模

製品出荷額 5.4億円

	正社員	臨時員	派遣社員	計
従業員	24名	1名	1名	26名

敷地面積 1,600.55m²

延床面積 475.64m²

(6) 事業年度 6月～5月(活動年度は4月～3月)

(7) 会社沿革

昭和21年3月 愛知紡織(株)として創業

昭和36年9月 豊島グループに参入

昭和44年6月 トヨシマ電機(株)と社名変更

平成19年12月 豊島グループ内にて組織再編を実施

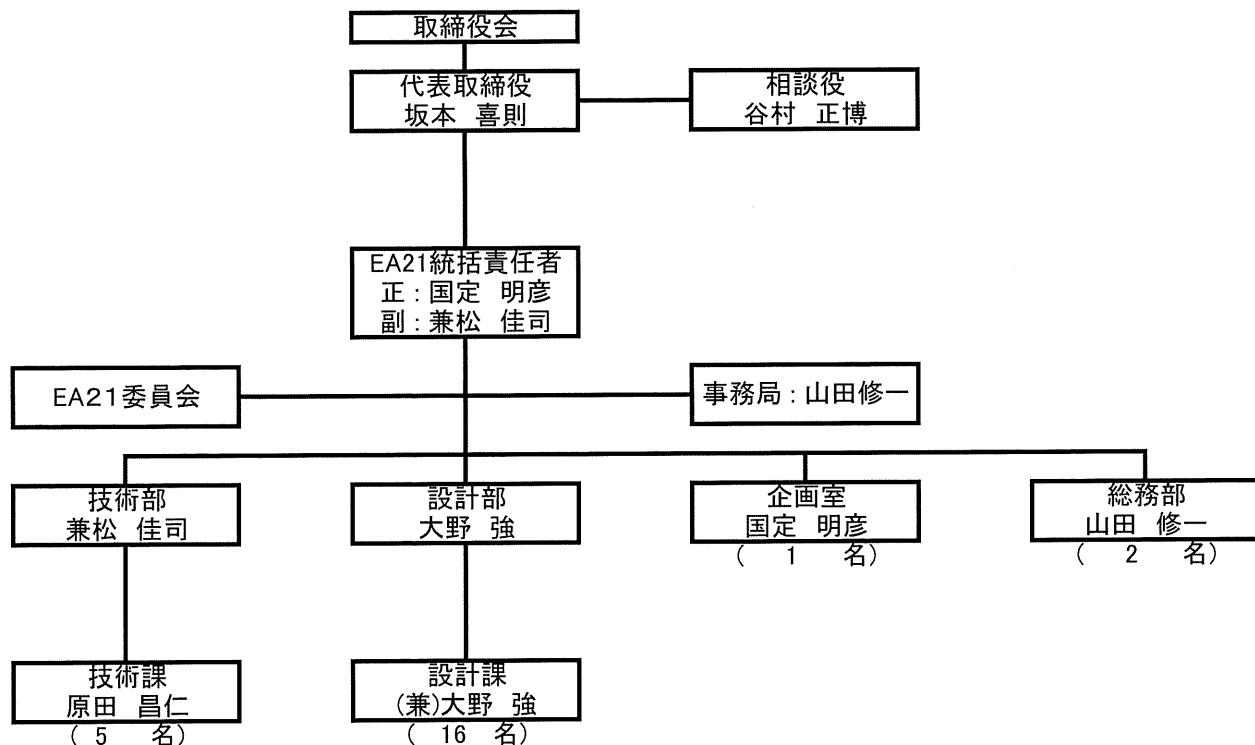
新設分割により、新規にトヨシマ電機(株)を設立

平成21年10月 新社屋完成

平成22年6月 エコアクション21認証・登録

平成29年2月 JISQ9100認証・登録

(8) 実施体制と役割



職名	氏名	役割
代表取締役	坂本 喜則	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針策定及び環境目標の決定及び見直しを行う。 ・環境経営システムの構築及び結果の評価を行う。 ・環境経営システムに有用な人材・設備・資金を確保し、効果的な運用と適切な維持管理を指示する。
相談役	谷村 正博	<ul style="list-style-type: none"> ・相談役として、経営全般の助言を行う。 ・環境管理責任者への助言を行う。
環境管理責任者	国定 明彦	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの遂行をする。 ・環境関連のコンプライアンスの監視を行う。
技術部	兼松 佳司	<ul style="list-style-type: none"> ・技術部の日常業務に於ける産業廃棄物の処理方法の検証及び、環境面での顧客への提案に関する活動を推進する。 ・建設業者向けガイドラインへの適用
設計部	大野 強	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル品の積極的採用 ・省電力の推進
総務部	山田 修一	<ul style="list-style-type: none"> ・部内の廃棄物の管理はもとより、社内全体の設備・システムを管理し、環境保全に関する活動を推進する。
EA21委員会		<ul style="list-style-type: none"> ・社長、環境管理責任者(正・副)、事務局、各部課長以上で構成し、隨時の会合、活動の進捗及び計画・結果の協議を行う。
事務局	山田 修一	<ul style="list-style-type: none"> ・社長、環境管理責任者を補佐し、運用面全般の統括を行う。 ・活動における事務処理を担当する。

<2> 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

(1)認証・登録範囲

登録組織名 トヨシマ電機株式会社
活動 電子部品の実装設計
クリーンブース、クリーンルームの設計・施工
各種ガス発生装置の製造・販売

1. 技術部事業紹介

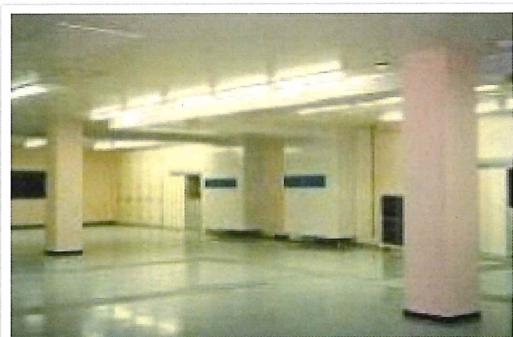
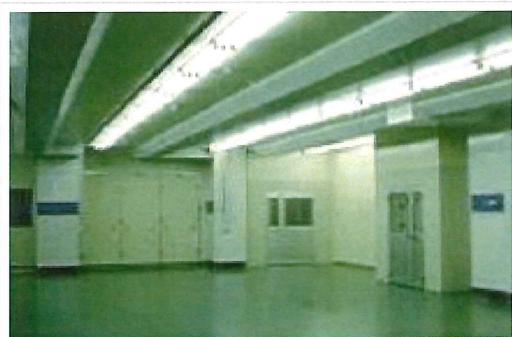
クリーンブース



・アルミフレーム式クリーンブースの特長

- ①アルミフレームの結合は・Tロック・ボルト・エンドキャップを使って
フレーム内部で結合させるため、簡単かつ外観に優れています。
- ②さらにコーナー部にコーナーステー(2ピース)を使い、強固な組立剛性を確保しています。
- ③メーカー直送により、短納期(約2週間)の対応が可能です。
- ④FFUは強弱切替により、省エネ運転も可能です。照明はLED仕様もあります。

クリーンルーム



・ライン式クリーンルームの特長

- ①少ない換気回数で清浄度を達成出来る
- ②従来方式と較べて清浄度・温湿度のバラツキが少ない
- ③天井下にサプライダクトを設置する為、天井の低い建物にも
クリーンルームが設置可能
- ④クリーンルーム設置後のグレードアップ及び移設も対応可能
- ⑤ユニット式の為、現地工事期間を大幅に短縮出来る
- ⑥室内ユニットのため、メンテナンスが容易
- ⑦空調機をインバーター仕様にする事により、省エネ運転も可能。照明はLED対応可能です。

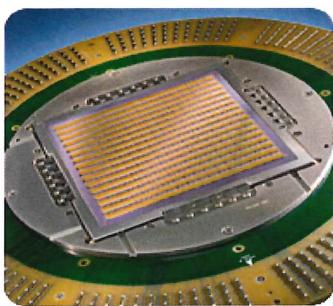
ロータリー式窒素発生装置



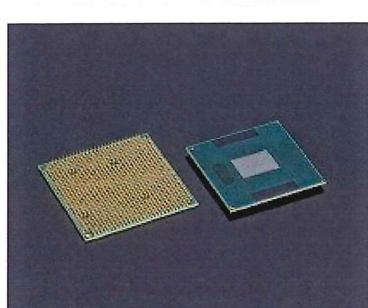
・ロータリー式窒素発生装置の特長

- ①ロータリーバルブ制御により大幅にコストダウン
- ②軽量 & コンパクト、そして低騒音設計です。
- ③高圧ガス保安法、第二種圧力容器の適用範囲外ですので、設置が簡単です。
- ④オプションで酸素濃度計の取り付けが可能です。
- ⑤ロータリーバルブの採用により、制御回路なしでも運転可能となり、省エネ運転。

2. 設計部事業紹介



半導体シリコンウエハーの検査に使用される
アルミナセラミックの多層基板のCAD設計



MPUなどの高密度多ピン対応の
オーガニックビルドアップ基板のCAD設計

(2)レポートの対象期間及び発行日

対象期間 2018年4月1日から2019年3月31日まで
発行日 2019年5月17日

基本理念

トヨシマ電機株式会社は、社会の一員として自然環境の大切さを認識し、此処に行動指針を策定し環境保全に全社で取り組みます。

環境行動指針

当社は電子部品設計及びクリーン環境(クリーンブース・クリーンルーム・窒素)関連機器の製造・販売の事業活動において、循環型社会を目指し自然環境に配慮し、その目標達成の為、全社一丸となって取り組みます。

- 1 事業活動において、CO₂の排出削減(省エネルギー)に取り組みます。
- 2 資源を大切にして、リサイクルとゴミの削減及び水資源投入量の低減に努力します。
- 3 化学物質の使用量の削減・代替努め、環境汚染の防止に努力します。
- 4 環境関連法令を遵守します。
- 5 全社員に環境問題を啓蒙し、環境方針の実行に継続的に取り組みます。
- 6 クリーン設備や環境関連商材、サービスに関する環境配慮に注力し、当該商材の提供により、社外での環境貢献に努めます。
- 7 グリーン購入に関し、計画的且つ効果的な取組を行います。
- 8 上記1~7の項目に関し、「質の向上」に努めます。

2018年4月1日

トヨシマ電機株式会社
代表取締役 坂本喜則

<4>環境目標と実績

(1) 環境負荷項目と削減目標

2010年度に、設備及び人員の大幅な削減を行った為、電力量、廃棄物、排水量の大幅な削減があり、事務所も移転となった。従って、2011年度からは環境が大きく変化している事から、2016年度までは基準値を「2011年度と2012年度」の平均値とし、目標値は「前年実績比-3%」としていた。

2017年度からは、目標値を「前年実績比-3%」から過去3年間の実績平均値に対し年率1%削減に変更した。
*2018年以降の中期目標に関してはこの考え方を踏襲する(過去3年間の実績平均値に対し年率1%の削減)

環境方針 負荷項目	(新)基準値 2014~16年平均	区分	前前期		前期		当期		来期	
			2016年度 第10期	2017年度 第11期	2018年度 第12期	2019年度 第13期				
CO2 排出量 <電力使用量> Kg-CO2/年	25,897 (基準値)	目標	前年比	-3%	3年平均△1%	3年平均△1%	3年平均△1%	3年平均△1%		
			数値	25,898	25,638	25,379	25,120			
		実績	前年比	-3.5%	2.6%	-4.6%				
			数値	25,774	26,453	24,217				
CO2 排出量 <ガソリン使用量> Kg-CO2/年	10,721 (基準値)	目標	前年比	-3%	3年平均△1%	3年平均△1%	3年平均△1%	3年平均△1%		
			数値	10,140	10,614	10,507	10,399			
		実績	前年比	3.0%	-13.9%	15.6%				
			数値	10,452	9,141	12,149				
廃棄物 総排出量 m ³ /年	36.5 (基準値)	目標	前年比	-3%	3年平均△1%	3年平均△1%	3年平均△1%	3年平均△1%		
			数値	34.3	36.1	35.8	35.4			
		実績	前年比	8.8%	-1.8%	6.1%				
			数値	38.5	37.8	38				
総排水量 m ³ /年	162 (基準値)	目標	前年比	-3%	3年平均△1%	3年平均△1%	3年平均△1%	3年平均△1%		
			数値	167	160	159	157			
		実績	前年比	-6.3%	8.1%	-3.8%				
			数値	161	174	153				
OA用紙 購入量 削減 Kg/年	770 (基準値)	目標	前年比	-3%	3年平均△1%	3年平均△1%	3年平均△1%	3年平均△1%		
			数値	760	762	755	747			
		実績	前年比	-1.0%	5.4%	-6.8%				
			数値	774	816	704				
社会貢献 項目增加 件/年	1件以上/年	目標	前年比	-	-	-	-	-		
			数値	3案件	3案件	1案件	1案件			
		実績	前年比	-	-	-	-	-		
			数値	0	0	0				
グリーン 購入の 推進 件/年	2品以上/年	目標	前年比	-	-	-	-	-		
			数値	6品目	5品目	2品目	2品目			
		実績	前年比	-	-	-	-	-		
			数値		1	0				

目標値の前年比:前年実績に対する比率

※電気の排出係数は「0.482」(t-CO2/kWh)を使用しています。

(2) 2019年度の環境目標

「総量」での目標設定に加え、環境効率性指標として「売上高当たりの数値」にも言及する。

「売上高当たりの数値」の単位は、"ポイント"と表現する。

環境効率性指標の妥当性については、継続的に検討を行っている。受注件数や営業利益等といった見解もあるが、受注物件の大小や利益率に大きく左右される事から、現状「売上高」が最適という判断となった。

2019年4月設定

環境方針・負荷項目	区分	単位	目標
CO2排出量 <電力使用量>	総量	Kg-CO2/年	25,120
	売上高当たり	ポイント	(49.25)
CO2排出量 <ガソリン使用量>	総量	Kg-CO2/年	10,399
	売上高当たり	ポイント	(20.39)
廃棄物総排出量	総量	m ³ /年	35.4
	売上高当たり	ポイント	(0.069)
総排水量	総量	m ³ /年	157
	売上高当たり	ポイント	(0.308)
OA用紙購入量	総量	kg/年	747
	売上高当たり	ポイント	(1.465)
社会貢献項目の増加	総量	件/年	1
グリーン購入の推進	総量	件/年	2

「社会貢献項目」について

「社会貢献項目」とは、顧客への「省エネ・環境配慮型商材」の提供、環境関連新技術の検討、環境負荷低減を通じた地域社会への働きかけ等をいいます。

2019年度環境効率性指標の目標値(下段)は、売上予算が確定し次第、目標値を決定する。

()内の数値は仮として2018年の売上予算値にて記載

<5>環境活動計画

主要な環境活動計画の内容及び取組状況

環境方針	2018年度取組手段
CO2排出量の削減 (電気使用量の削減)	1.昼休等、不要場所の消灯 2.給茶機のエコ運転(勤務体系、季節等) 3.器具の監視と定期交換・清掃 4.ガラス面に断熱材(フィルム、塗料)施工の検討 5.空調は必要な区域・時間限定 6.空調機フィルターの定期清掃・交換
CO2排出量の削減 (ガソリン使用量の削減)	1.急発進・急加速・急停止の禁止 2.暖機運転・ストップ 3「エコドライブにこころがけましょう」等車内でのPR 4.エコカー等への切替検討 5.公共交通機関の利用 6.自転車通勤の奨励
廃棄物排出量の削減	1.顧客にて発生する産廃削減の検討 2.納品時の梱包・包装の削減 3.マイ箸、マイカップ、マイ水筒運動 4.CO2削減値の把握と展開 5.分別による削減方法の検討 6.ゴミの圧縮・減量化
水使用量の削減	1.節水ツール等の検討 2.節水の呼びかけ 3.清掃回数減少→汚さない工夫
OA紙購入量の削減	1.印刷物の必要最低限量の考慮 2.社内配布・PDF&メールの増加 3.ミスコピー防止の為の設定リセット 4.両面・集約機能を利用したコピー、印刷 5.裏紙コピー、使用済封筒等の利用
化学物質の監視	1.新規購買品にPRTR法該当の化学物質が含有されていない事の確認 2.環境関連法令の改正、新規該当法令の確認 3.環境配慮型商品の積極的PR 4.HPの見直し、改定 5.取引先での環境面取組方法の吸収 6.環境関連新技術の検討
社会貢献・対顧客活動	1.特定フロンの回収、適正処理(顧客対応) 2.環境負荷低の為の情報提供 3.構外の除草、清掃
グリーン購入の推進	1.グリーン購入の社内での啓蒙、勉強会 2.エコマーク一覧の活用 3.取扱商品への適用 4.カーボン・オフセット商品の検索、検討 5.既成製品も計画的に製品アセスメント等実施 6.仕入先等に簡易包装の依頼 7.輸送時のパレット・通い箱の利用
総合	1.取組活動において他社の事例を参考にする

<6>環境目標の実績

(1) 2018年度の環境目標と実績

「総量」での目標設定に加え、環境効率性指標として「売上高当たりの数値」にも言及する。
 受注量の増加に伴う変動に柔軟に対応する事により、目標が現実的なものとなる。
 「売上高当たりの数値」の単位は、“ポイント”と表現する。

環境方針・負荷項目	区分	単位	目標	実績	差額	増減率	評価
CO2排出量	総量	Kg-CO2/年	25,379	24,217	-1,162	-5%	○
<電力使用量>	売上高当たり	ポイント	50.76	44.93	-5.82	-11%	○
CO2排出量	総量	Kg-CO2/年	10,507	12,149	1,642	16%	×
<ガソリン使用量>	売上高当たり	ポイント	21.01	22.54	1.53	7%	×
CO2排出量合計	総量	Kg-CO2/年	35,886	36,366	480	1%	△
廃棄物総排出量	総量	m ³ /年	35.8	38	2.20	6%	×
	売上高当たり	ポイント	0.072	0.071	-0.00	-2%	○
総排水量	総量	m ³ /年	159	153	-6	-4%	○
	売上高当たり	ポイント	0.318	0.284	-0.03	-11%	○
OA用紙購入量	総量	kg/年	755	704	-51	-7%	○
	売上高当たり	ポイント	1.510	1.306	-0.20	-13%	○
社会貢献項目の増加	総量	件/年	1	0	-1	0%	×
グリーン購入の推進	総量	件/年	2	1	-1	50%	×
太陽光発電量	総量	Kg-CO2/年		11,888			

△:わずかに未達成

社会貢献項目の増加とグリーン購入の推進は、達成率で表示
 CO2排出量の合計欄と、太陽光発電量(売電)欄を追加

<7>環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組内容

(1) 環境活動計画の取組結果と評価

環境方針	第12期・2018年度取組手段	達成度の評価			コメント	次年度の取組
		4~6月	7~9月	10~12月		
CO2排出量の削減 (電気使用量の削減)	1.昼休等、不要場所の消灯	○	○	○	○	継続
	2.給茶機の工コモ監視と定期交換(製造体系、季節)	△	△	△	○	継続
	3.器具の監視と定期交換・清掃	△	△	△	△	継続
	4.カラス面に断熱材(フィルム、塗料)施工の検討	△	○	△	△	継続
	5.空調は必要な区域に時間限定	×	×	×	×	継続
	6.空調機アルターの定期清掃・交換	○	○	○	○	継続
	1.電券進・急加速・急停止の禁止	○	○	○	○	継続
	2.暖機運転・ストップ	○	○	○	○	継続
	3.[エコドライブ]に[ここがけましよう]等車内でのPR	○	○	○	○	継続
	4.エコカー等への切替検討	△	△	△	△	継続
CO2排出量の削減 (ガリバ使用量の削減)	5.公共交通機関の利用	○	○	○	○	継続
	6.自転車運動の奨励	△	△	△	△	継続
	1.顧客にて発生する産廃削減の検討	△	△	△	△	継続
	2.納生の梱包・包装の削減	△	△	△	△	継続
	3.マイ箸、マイカブフ、マイ水筒運動	△	△	△	△	継続
	4.CO2削減債の把握と展開	△	△	△	△	継続
	5.分別による削減方法の検討	△	△	△	△	継続
	6.ゴミの圧縮・減量化	△	△	△	△	継続
	1.節水ツール等の検討	×	×	×	×	継続
	2.節水の呼びかけ	○	○	○	○	継続
水使用量の削減	3.清掃回数減少→汚さない工夫	△	△	△	△	継続
	4.印刷物の必要最低限量の考慮	△	△	△	△	継続
	5.社内配布・PDF&メールの増加	△	△	△	△	継続
	3.ミスコピー・防止の為の設定リセート	○	○	○	○	継続
	4.裏面・集約機能を利用したコピー、印刷	○	○	○	○	継続
OA紙購入量の削減	5.裏紙コピー、用紙を省く等の利用	○	○	○	○	継続
	6.購入実績なし	○	○	○	○	継続
化学物質の監視	1.新規購買品にPRTR法該当の化学物質が含まれていない事の確認	○	○	○	○	継続
	2.新規購買品にPRTR法該当の化学物質が含まれていない事の確認	○	○	○	○	継続

様式:4-01 (4. 環境関連法規等のとりまとめ)
環境関連法規制等取りまとめ表（遵守評価記録）

様式:12-02 (12. 取組状況の確認並びに問題のは正及び予防)

毎年定期的な遵守評価の前に制定、改正の確認を行う。普段から規制の動きには注意を払う。

登録簿更新日：2018年4月2日

遵守の評価日：2019年5月17日

遵守評価の欄に確認した記録など記入 判定欄:○×(×の場合は問題点は正票により解決を図る)

法規制等 の名称	該当する要求事項 (対応すべき事項)	関連条例等による規制	該当する設備・項目	点検・測定頻度、実施時期	届出・報告・資格許可	届出報告	届出先	担当部署	誓約書・許可証	誓約書・許可証	判定者
廃棄物処理法	・委託基準：一廃収集業者の許可の確認 ・委託基準：産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、 契約 ・保管、収集・運搬の基準 部署毎に保管する 収集・運搬・月2回 第1、第3水曜日 技術部等臨時の場合別途 ・マニフェスト交付 電子マニュフェスト	廃棄物処理法第6条 ・一般廃棄物(紙くず、繊維くず、木くず、生ごみなど) 産業廃棄物(金属類・漆類・プラスチック類・廃ガラス・廃油・木製パレット)	・1回/年 ・契約書/許可証につき1回/年					総務	契約書・許可証	契約書・許可証	○ 山田
消防法	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 ・受注工事に消防設備がある場合 ・当社内消防設備消火器具、非常警報器具及び配線	毎年6月末迄に提出 消防用設備(第31条の3関係) 消防用設備(第31条の3関係) ／年1回点検・3年に1回届出	顧客 社内	6月初旬提出予定 新設・委更時(事前・事後)	○	○	○	該当市町村の消防本部	技術 新設(有無)	報告書	○ 山田
高压ガス保管法	高压ガスの取扱、事前届出、管理	消防用設備(第31条の3関係) ／年1回点検・3年に1回届出 高压ガス保管法第四章	施工時に高压ガスを使用する場合	2019年2月20日 実施	○	○	○	小牧市消防本部	総務	点検報告書	○ 山田
フロン排出抑制法	・フロン類の適切な処理 ・回収・破壊の工程の確認 ・簡易点検、定期点検の実施 排水の管理(生活排水のみ)	フロン排出抑制法	空調機設置・修理時 廃棄時 修理時					技術	工事届	○ 山田	
下水道法	下水道法第12条	下水道	化学物質を使用の場合 事前検討					総務	生活排水の技術	○ 山田	
化学物質排出把握管 理促進法(PTR法)	・性状及び取扱いに関する情報(SDS)の提供 ・指定化学物質の管理(非使用、基準遵守等)	化管法第14条／施行令	現状無し(新規物質の出現を常にモニタ)					技術	SDS提供状況	○ 山田	
グリーン購入法	・環境物品等の調達に関する基本方針の変更 ・環境マネジメントシステムの運用	ケーション購入法第5条						技術	カタログ等 設計	○ 山田	

・環境関連法規への違反はありません。尚、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

<9> 代表者による全体評価と見直し

平成30年4月～平成31年3月については、太陽光発電の合計で24, 663Kw。

月平均で2, 055Kwの発電がありました。

年間で、11, 888kgのCO2の排出を低減できました。(売電)

天候による影響で、昨年度より363Kw少なくなりました。

CO2排出量について、電気使用量は総量、売上当たりのポイントとも目標を達成しました。

全社員を対象としたCO2削減への啓蒙活動を実施し、提案2件を採用しました。

1. 電気給湯器へタイマーを設置し夜間は通電を制御。
2. エアコンフィルターの清掃回数を増やす。(年1回→年4回)

ガソリン使用量は、本年度は遠方の顧客が多く、長期にわたる工事案件が多かった為、

総量、ポイント共未達成となりました。

総排水量に於いては、総量、ポイント共に達成しました。

廃棄物に関しては、工事が増えた等により、廃棄物排出量の総量は未達成

となりましたが、売上が増加した為、ポイントでは達成しました。

OA用紙の購入量削減は、目標達成となりました。

社会貢献及びグリーン購入については、クリーンブースでの照明にLED照明を標準仕様とし
客先に提案、採用し納品しました。(現在は全てLED照明仕様)

また、本社屋のLED照明への切り替えと窓ガラスへの断熱フィルム施工について、

見積もりを取得して来期以降の検討課題としております。

今後も社内でのコミュニケーション、検討会を増加させ、業績の向上と環境活動の

活性化の両立を目指し、全社一丸となって推進して参ります。

2019年5月17日

トヨシマ電機株式会社
代表取締役 坂本喜則